

埼玉県下水道公社職員の一日の仕事を紹介します。
(電気・機械職編)



◆朝の打合せ

職員全体での打合せから一日が始まります。
水処理・汚泥処理・中継ポンプ場の前日運転データの報告及び当日作業内容について連絡し情報共有することで、事故等が起きないように職員全員の意識を統一します。同時に管理職員においては職員の健康状態もチェックしています。
ラジオ体操を行っている支社もありま〜す！



◆委託業者との打合せ

各設備担当ごとに、委託会社からの報告を受け、そのデータから今日の作業内容を調整・指示。
また、工事や修繕による運転計画の変更や、見学者の受入れの有無など、安全第一の作業となるよう綿密な調整を行います。



◆データ入力・確認

報告を受けた管理データをまとめ、PCサーバに入力・確認・保存し、日報を作成。日報を全職員に供覧し、担当間での情報共有を図るとともに、全体的な運転状況の把握を行います。
また、薬品・燃料などの在庫状況を確認するとともに、発注・管理業務を行います。



◆施設見学案内

毎日ではありませんが、小学生の社会科見学や一般県民の施設見学、また海外からの研修生などの案内を行います。分かりやすく丁寧に説明するプレゼンテーション能力も養われます。
稀に、答えに困るような鋭い質問・素朴な疑問もあり、日々勉強です。



◆昼休み

弁当持参はもちろんのこと、弁当屋さんに頼んだり、コンビニ弁当だったり、毎日カップラーメンという職員も……

もちろん休憩時間内であれば外食もOKです。
(ファミレス、定食屋、ラーメン、牛丼などなど)



◆現場確認

自分が担当する設備の運転状況を、自分の目で、耳で、鼻で確認し、不具合がないか、部品交換が必要かどうかを判断します。

実は、これが非常に重要な作業で、公社職員の長年の経験で培われたノウハウがあればこそその職人技です。



◆設計業務

自分が担当する設備の委託や修繕の設計書を作成します。

設計に際しては、必要最小限で最大限の効果が得られるよう、職場内の検討会（インハウス委員会）を通じて委託業務内容や修繕項目などを精査し、コスト縮減を図ります。

これも公社職員ならではのノウハウです。

・・・etc



とは長年の経験で培った、公社職員一人一人が誇れる匠の技です。

“先輩からのメッセージ”



◆プロフィール

所属：荒川左岸南部支社
担当：運転管理担当（電気職）
氏名：岩崎 尚平
入社：平成12年
卒業：電気科

◆メッセージ

私は、中継ポンプ場と再生水浄化プラントの維持管理を担当しています。具体的には、自家用電気工作物の年次点検の監督及び点検計画の作成、修繕（機器の機能維持）の設計及び監督、電気設備の委託（保守点検）、日報、月報のデータ作成、維持管理に必要な材料品、薬品、燃料の購入及び在庫管理をしています。

ライフラインの一部である下水道の仕事に携わることには、県民生活の向上や環境負荷の軽減を図ることに貢献できることであり、十分にやりがいを感じています。また、コスト削減の取り組みや新技術採用の試みも、達成感を感じられる仕事です。

異常降雨時や設備のトラブル発生時において、今は諸先輩方が先頭に立ち現場の指揮をしています。自分もその役目が果たせるようになりたいと思い、日々努力しています。



◆プロフィール

所属：中川支社
担当：運転管理担当（機械職）
氏名：齋藤 朋之
入社：平成7年
卒業：航空整備科

◆メッセージ

～下水道は眠らない～

生活に欠かすことのできない公共事業に対し、約20年間職務に就いております。

内容は、機械や電気の基礎知識を活用した下水処理設備の維持・管理です。プラントの運転・保守・修繕の計画立案や運転の履行監視、保守・修繕の金額設計、これら執行に要する予算編成等といったところです。

このように事務的な内容のほか、保守・修繕中に現場へ赴き、作業状況の把握や機器の動作確認を行ったりします。また、大雨・地震等、自然災害の非常事態では、想定外の状況を予想しなければならず、それらに備えるため徹夜で対処するといった体力も必要です。

間違いなく、この仕事はなくてはならないものですし、やりがいもあります。そして、年々変化する処理技術に対応するよう、自己研鑽を重ねる努力も不可欠です。

下水道は眠らない…。この道に果てはないのです。



◆プロフィール

所属：荒川右岸支社
担当：運転管理担当（機械職）
氏名：高山 和保
入社：平成2年
卒業：機械科

◆メッセージ

私が所属する荒川右岸支社の運転管理担当（汚泥処理G）は、新河岸川水循環センターの汚泥処理施設に関わる維持管理及び設備保守を行っています。

私の担当は主に汚泥処理施設に関わる維持操作と汚泥焼却炉設備の修繕設計や監督業務を行っています。特に興味をもって取り組んでいるのが焼却炉で使用する燃料の削減です。これは処理する汚泥自体に可燃分があるため燃料を使用しなくても処理できる方法で自燃運転と言います。この自燃運転を如何に継続させるかをテーマに設備改善や運転操作の工夫などに励んでいます。

過去には役職員の後押しを受けて主担当として省エネルギー優秀事例全国大会に出場したこともあり、大変責任感を感じる仕事も経験させて頂きました。



◆プロフィール

所属：古利根川支社
担当：運転管理担当（電気職）
氏名：山本 健二
入社：平成20年
卒業：工学部電子工学科

◆メッセージ

私の担当は、中継ポンプ場及び管渠の運転管理・監督業務で、各中継ポンプ場にある電気設備の定期点検（停電作業）、管渠点検、委託及び修繕の設計・監督業務、燃料や材料品の発注などです。

古利根川流域には中継ポンプ場が6箇所あり、それぞれ特徴や運転方法が異なります。これらを24時間365日稼働させるため、各中継ポンプ場の特徴や運転方法を把握し、設備を止めずに安全かつ効率的な運用を毎日継続させることは難しいことですが、この仕事のやりがいでもあります。

今後の目標は、設備に関する知識をより高め、異常の早期発見や緊急時の対応など高い技術力を身につけることです。